

組み込みソフトウェア・エンジニアの溜め息・・・

ポジションペーパー、切羽詰まって何を書くか... ふうっと溜め息。文章書きは苦手な作業である。

組み込みソフトを始めて x x 年。ふと気が付けば、設計・コーディング・デバッグ etc. ソフト屋の基本的な作業よりも、色々なドキュメントを書いていることの方が多くなっていることに気づく。

要求仕様書、システム概略の設計書、モジュール設計書、タスク間タイミングチャート、テスト仕様書 etc. やっと出来上がれば、保守用に資料の訂正などなど。1 プロジェクト終了するまでに、確かにずいぶんとプログラム以外の文書を書き綴っている気がする。

「出来ることならば、直接プログラムを書いた方が楽なように思う。いやしかし、デザインレビューもやらなければいけないし... はあ～」

「モジュール設計書なんて面倒な。考えてること、自動的に文書 (or コード) にならないかなあ。いやしかし、プロジェクトメンバ (もしくは外注さん) に分割依頼するには、インタフェース明確にしないと... ふう～」

「プロジェクト終了時のこの資料改訂がなんて面倒なんだ。いやしかし、自分で作成したプログラムも一月もたてば他人のコードのように見えるから、やっぱり設計書は残さないと、引継ぎどころか自分で保守できなくなりそうだし... ほう～」

文書作成は苦手であるのに、プログラムを作るだけでも沢山のドキュメントを手にかけていることか。(その上、プロジェクトの報告書やら何やらまでであるが、それはここでは置いておくとしても)

こんな愚痴っぽい思考を電気回路設計者の同僚に話してみたことがある。

「でも、ソフト屋さんってドキュメント書くのがほとんど仕事じゃないの。まあ、若手ならデバッグしたりの実作業が多く占めるのかもしれないけどね。それって、ソフト屋の宿命だよ。」

「っえ、ドキュメント書きがソフト屋の宿命??」

果たして、本当に逃れられない作業なのだろうか。

どう設計したらよいか、何を書き残せばプログラムの理解ができるか。その解決方法が見つからないのだから、第三者にも判ってもらうためには、これらのドキュメント作成は必須なんであろうか... おそらく、私が現役でいる間ずっと解決されない問題なんであろう。はあ～...

記 : (株) 組込ソフト 開発部 組込華子